

## 62年度支部総会 - 新役員 の 選出

5月16日(土)弥生会館において昭和62年度構造家懇談会中部支部総会が開催されました。松久哲雄氏を議長に選出して議事に入りました。61年度の活動報告と決算の承認ののち、今年度は2年任期の理事の改選期にあたりますので新理事の選出がされ、下記の新役員より62年度の活動方針と予算が提示され承認されました。

新役員 支部長 渡辺誠一

副支部長 本郷智之(技術委員長)

〃 森田富士男(事業委員長)

支部理事 平田 肇(広報委員長), 大塚一三

豊島祐昌(事務局), 大石博司

福見靖宏, 藤田良能, 山口雅生

支部会計 豊島祐昌

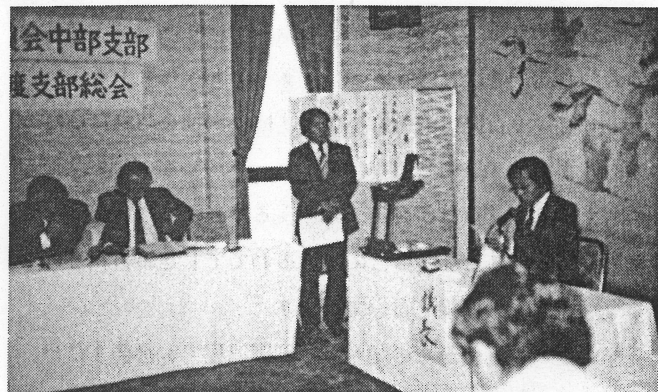
会計監査 木坂洋司

総会に続き松岡理名大教授の講演がありました。

### 支部長再任をうけて

#### 支部長 渡辺 誠 一

会員の皆様方には、ますますご活躍のこと大慶に存じます。本年度の支部総会・理事会において再び支部長をお任せつかりました。過去二年をふりかえるとき、反省すべき点多々ございますが、理事各位、各委員会の皆様方のご支援により何とか、支部長を勤めさせて戴きましたことを感謝致します。さて、当支部も昭和56年10月設立以来、6年目を迎えるところですが、支部会員数も正会員90余名になろうとしており、会全体で1,200余名でありますから、順調に会勢も延びている次第であります。本年の支部活動として新しい試みは、例年の活動に加えて、北陸、静岡地区活動の推進であり、会員の拡大であります。特に地区活動の推進は、過去二年、各地区で懇談会開催による会員からの声であり、その成果であることを申し添えておきます。このような地区活動の推進と、遠隔地の会員の皆様のコミュニケーションのパイプ役として、支部理事を北陸、静岡各1名増員し、理事会の増強を計るべく、本年度より、理事会の態勢を変えた次第であります。一方、会全体の状況について一言ふれさせて戴きますと、本年総会において、矢野代表の挨拶にありましたように、以下のような課題があります。



即ち、一つには、会員構成のアンバランスの是正、会員拡大であり、準会員の増員であります。二つには、国際化への対応、その三に職能の分化、それへの布石として法人化の推進であります。ご案内のように、今年予算の中には法人化対策費も計上されており、活動が、期待されるわけでありませぬ。そして実務家としての設計指針、クライテリアの提言があります。

本会の昨年の活動報告によりますと1年間に355件の各種事業活動がなされており、実務のかたわらこれだけの事業が行なわれている当会のエネルギーは大変なものと思えます。このような大きな盛り上げをいかに維持、拡大していくか、これも大きな課題でありませぬ。会員の皆様のご協力次第と思えます。さて時代は新しい方へと大きく変化致しております。新日本建築家協会の誕生も、新時代にむけての大きな潮流でありますし、日本の建築家企業の海外進出、同時に関西国際空港建設を契機として建設業の国内市場の開放への運動、日本の貿易まさは我々にとっても、大きな影響を受けるところであります。矢野代表の云われる国際化へ対応、今後、さしせまりつゝある研究課題であります。話を支部にもどし、支部活動も地味ながら順調でございまして、行政の方々との懇談会なども本会の意図するところをご理解願っているところであります。各種講習会なども先輩の各関係団体からのご支援をいただき、会員のみにとどまらず、広く教育、研修活動を行っております。特に学会会員の諸先生方には大変ご支援を賜っておりますことを付記してお礼申し上げたいと思えます。最後に支部活動が、ますます活発に、なりますよう、会員の皆様にご協力をお願い致します。何分微力ではございますがこれから更に二年の任期を勤めさせて戴きますのでよろしくお願い致します。

## トピー工業豊橋製造所見学会（5月30日）

### 河合 壮六

私は、数年前まで愛知県内で電炉を使って製鋼加工していることを知りませんでした。ある時、仕事先で、工場技術者よりこれを知り驚きました。見学の機会を得て、構造家懇談会の若手有志と共に、「Seeing is believing」（百聞は一見にしかず）にて現地を訪れた幸いです。

これまでは、『鉄は、高炉からできる？』というニュース映画程度の知識しかなかったので、あわてて「建築材料」の本を見ながらこの原稿を書いています。

見学の後、工場側からの説明は、製鋼過程で、必要または不足の元素を数段階で調整検討しているとのことでした。

「新耐震設計法」が実施せられてから特に小生自身、構造設計の中で、建築の平面、立面の計画及び構造解析に追われ、「建築材料」が、全く不勉強であったと思います。

この傾向は、今後共改善しにくいことも痛感させられました。

### 技術委員会活動計画

#### 本郷 智之

技術委員会は過去5年間、精力的な活動を行なって来ました。その成果は、すでに支部会員の皆様に報告した通りであり、報告書は支部事務局に保管されています。それをみますと、構造各論については、かなりの活動成果が得られて来たと考えますが、それらを総合化する構造設計については、あまり議論されて来なかったように思います。会（東京）のほうでも、今年は構造計画部会（仮称）の設置を検討することになりました。そこで、62、63年度の中支部技術委員会の活動は、下記の定例研究会を中心に行いたいと考えています。

#### 1) 構造計画研究会（技術委員，自由参加）

- ・会員の構造設計例の紹介と討議
- ・構造諸元（資材量，建物重量等）の収集と分析
- ・見学会，構造関連業界との意見交換会

#### 2) 地盤研究会（技術委員）

- ・地盤およびくいの支持力と変形性状  
（名古屋，岐阜，静岡，北陸）

技術委員会は、原則として月1回開催し、上記の定例研究会を同時又は交互に行いたいと考えています。現在技術委員は17名ですが、気楽に参加していただきたいと思いますので、委員会事務局（桐山宏之，TEL 261-6131）まで御連絡下さい。

## 事業委員会

### 森田 富士男

再度、事業委員長を引き受けることになりました。最近、小冊で「力のメカから知のメカ」と題する文を読みました。ハイテク文化の技術哲学の基本としてのくだりが書かれているものでした。失礼ながら、先の題をもじって、「力のメカから知のメカと地のメカ」として、進めたいと思います。えらい固くなりましたが、要するに巾広く、文化を知り、現代造りにみんなで参加できれば、というのが、本音です。

今年度の事業計画の概要をお知らせします。

7月25日	見学会	集成材見学
9月	研究会	新名古屋地盤図の関連話
11月	講演会	名設計家の話二題、懇親会
1月	新年互礼会	多賀教授土産話、懇親会
3月	見学会、研究会	
5月	総会	免震ビデオフォーラム解説、懇親会

未知数が、沢山あります。よろしく。

## 広報委員会

### 平田 肇

前期に引き続き広報を担当することになりました。広報はその活動の大部分を広報誌の発行に当ててきました。年3回の広報誌「構造懇中部」の発行を目指しておりましたが、広報委員会の非力のため目的を果せませんでした。お詫び致します。今期は支部理事会より藤田理事を広報担当として増強していただきました。大いに頑張りたいと思っております。

委員としては下記の通り前期に引続いての5名と藤田・岩井さんの都合7名です。

誌面は今まで通りとし、会員の声、事業の予定・結果の報告、会員の紹介・消息、支部の動き、委員会だより、事務局だより等を予定しております。会員の皆様をお願いする原稿が頼りの面もあります。ご協力下さい。

委員長	平田 肇	安井建築設計事務所	961-1861
副委員長	藤田良能	清水建設	201-7611
委員	岩井武夫	〃	〃
	〃	勝股浩二	青島設計 262-2341
	〃	木坂洋司	日本設計事務所 211-3651
	〃	鈴木 勉	石本建築事務所 263-1821
	〃	西垣要治	大成建設 204-3111

## 地下鉄6号線工事現場見学記

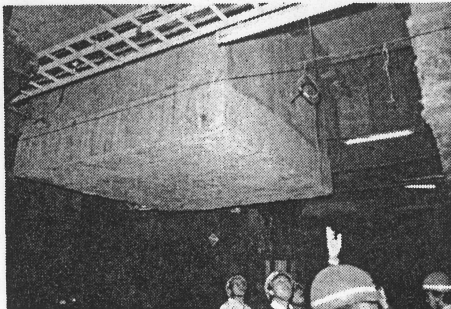
松久 哲雄

使用されている建物の基礎を下から見上げるという風景は、異次元の世界を垣間見るようで奇妙なものであった。建築と土木とで工事場にそれほど違う事はない筈なのに、ある種の異和感を伴うのはなぜだろう。上部建物の基礎補強に相当な労力と資材が費やされている事もあるのだろう。

基礎工事の歴史を見るといって大袈裟であるが、新幹線部分の基礎杭にはPC系の杭が使用されていたし、それ以前の部分の基礎には木杭が使用されていた。また地下街、地下鉄、名鉄などは直接基礎となっていた。砂層は十分に乾いていたが、多少粘性土が混ざっているためかパサパサではなかった。これは少し前の都市開発によって、周辺に地下階が設けられたりして地下水の汲み上げによって地下水位が相当低下しているであろう。木杭は通常地下水中に設けられている必要があるとされているが、当周辺ではそのような状況にはないが、木杭には腐食は見られなかったし、まだ相当な期間使用できる杭材と思われた。

粉塵をなるべく発生させないための配慮として、ボーリングマシンを利用して、既存建物のコンクリートを撤去していた。

建物のリフレッシュなどについて、近年話題が多いが、都市の地下施設も拡充の為、建物の下部にも巨大な施設が作られるようになってきた。このような状況の中で今回の見学会は、色々な問題を我々に与えてくれる良い機会となり意義深いものであった。



## 愛知県構造審査要領（仮称） 作成の経過について

昨年2月、愛知県建築指導課より、県の構造審査要領（仮称）作成の依頼がありました。

その趣旨は「審査担当者は必ずしも構造の専門ではなく、又、移動も頻繁である。そういう人達を対象として、構造審査能力の養成と、審査事務の統一化、迅速化、省力化及び明確化を目的として要領を作りたい。」ということでした。

そこで、構造懇として積極的に協力しようということで、技術委員会が中心となって意見交換を重ね、「設計者である我々にも役に立ち、かつ設計の自由度をひろげられるものにしてしよう。」との方針を立てました。

その後、10数回の委員会、分科会を行い、審査要領を次の2編から構成しました。

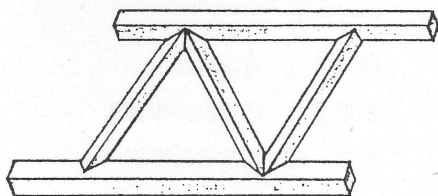
- ① チェックリスト（構造設計の概要を示す一覧表で、審査内容の明確化、審査事務の統一化、迅速化をはかる。）
- ② 解説（審査側が判断するマニュアルとなり、又①の目的にも通じる。）

以上の資料を本年2月県に提出致しました。その際支部長名にて「提出資料に関するお願い」として次の内容を文書で添附しました。

- ① 設計とは自由な発想下でのもので、画一的な審査要領としないよう。
- ② チェックリストの使用により、確認申請業務の簡略化を計られたい。
- ③ 解説書の数値は目安であり、審査がこれに拘束されないよう。
- ④ 内容については、2～3年毎に見直しされたい。

現在、県の担当者連絡会で検討中とのことで、概ね、われわれが提出したまゝの形で、近々申請業務の中に採り入れる予定と聞いています。（ご意見は、支部技術委員会まで）

## 大スパン構造用角パイプYトラス



● お問い合わせ・カタログ請求は：  
新日鐵・名古屋営業所建築営業室  
TEL. 052(581)2181(代)

「Yトラス」とは、角パイプトラスの弦材およびラチス材を断面軸回りに45°回転させて溶接接合する工法です。  
(実用新案申請中)

— Yトラスの特長 —

- 強度と剛性が高い ● 鉄骨重量の軽減 ● 加工工数の低減
- 経済性の高い大スパン構造が可能 ● デザインの美しさ



新日本製鐵

建築・都市開発事業部建築鉄構部  
東京都千代田区大手町2-6-3(新日鐵ビル) 〒100  
TEL. 03(242)4111(代)

## 「見極める感覚」

(株) 日本設計事務所 木坂洋司

日航ジャンボ事故から2年が過ぎようとしていますが、その最終報告書の中で、超画期的なことは、目視検査で亀裂が発見できた確率は14～60%と数値で示されたことだとありました。この算出要因は点検時の明るさや熟練度、チェック用カードの中で見つかる可能性のあるカードの枚数などだそうです。



平生、数字に埋れて過ごしている者にとっては、とかく数値に頼り過ぎるきらいがありますが、一方では、このように従来数値では表わし得ない分野を数値化しようとする開発も進んでいるようです。

私たちのまわりには、一見数値化は無理な事柄(愛情、悲しみ、わび、健康、天候など)がたくさんあるように見えますが、その気になれば意外と明快な分析ができるのかも知れません。

コンピュータの発達により、相当複雑な計算でもいとも簡単に数値が得られ、科学の進歩に大いに貢献しておりますが、一方で、できるけれどもやっつけはいけないこと(核戦争や遺伝子の組換えなど)もあります。この辺のやっつけなことと悪いことの見極めができる感覚を養っておく必要があるのではないかと思っています。

## 「静岡だより」

大石博司

今回、当会・支部の理事に推挙されたことは、会員の非常に少ない静岡県の会勢拡大が至上命令と受け止めなければならず、困惑の色を隠せません。

と、言うのも、当地の有力構造家と目される方々は、ほぼ事務所の主唱者であるため、ここ数年にわたり設監連の新組織運動に専念されていたため、入会の勧誘がはばかられていました。

しかし、JIA設立が叶ったいま、まだまだ、障害となる地域の事情があり、ご理解を得なければなりません。

東海地震説とあい前後して、耐震診断基準が発表され、昭和54年、静岡県が地震防災強化地域に指定されました。

以来、耐震診断3,000棟

耐震補強400棟を消化したのは、静岡県建築事務所協会の50余名の構造実務家で、東ね役の判定会を中心に強固な組織が既に出来上がっています。

ご承知の通り、静岡県には、国公立を問わず、建築科のある大学がありません。そこで地元静岡市出身の梅村魁先生を頼るところとなり、日本建築防災協会SPRC・SPS両委員会の青山博之・岡田恒男・加藤勉教授をはじめ、当代一流の先生がたに直接指導を受けました。そのパイプが現在も保たれ、将来も継続させようと努力しています。

新耐震設計のご教示等は申すに及ばず、非常にきめ細やかなご指導を戴き、あたかも、構造家懇談会のミニ版とも言えます。

構造家懇談会を新たな知識のアンテナと位置づけて入会を勧誘しても、東に向いている情報の窓口を西に向けさせるのはなかなか容易では有りません。

しかし、構造家懇談会の動静に付いて関心も高く、入会しやすい状況を醸成していただければ、必ず効果が、期待できます。少し長い目でみて戴きたいと思います。

## 支部の動き

11/29	建築CAD講演会	87名出席
	懇親会	24名出席
1/17	新年互礼会	37名出席
	懇親会	27名出席
2/20	地下鉄6号線名古屋駅工事現場見学会	31名出席
4/21	鉄骨構造講習会	93名出席
	講師 坂本先生(名大)	
	桐山・橋村・原会員	
5/16	支部総会	50名出席
	懇親会	29名出席

## 理事会

11/20	本部理事会報告-入会承認、構造建築士制度 技術・事業・広報各委員会報告
2/10	本部理事会報告-5/29総会・入会資格内規案 S造講習会予定・支部総会5/16
4/6	61年度事業報告・収支決算案 62年度計画・予算案
6/12	静岡・北陸の動き(会員の増強) S造講習会(北陸)の予定について 技術委員会の成果の公開について
技術委員会	11/5, 12/2, 各分科会・幹事会数回
事業委員会	1/30, 3/2, 3/13, 4/10, 5/8, 5/28, 6/23, 7/21
広報委員会	6/5, 7/15

発行 構造家懇談会中部事務局

TEL 052 - 261 - 6131